

2019年9月3日

町田市長
石坂 丈一 様

町田市環境審議会
会長 川瀬 博

「第二次町田市環境マスタープラン」、「町田生きもの共生プラン」
2018年度進捗状況の点検評価について（報告）

第73回（2019年7月2日開催）、第74回（2019年8月19日開催）町田市環境審議会において、「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」の2018年度進捗状況の点検評価を行った。その結果を、以下のとおり報告する。

記

1 総括

「第二次町田市環境マスタープラン」は、2017年4月に策定された「後期アクションプラン」に基づき、目標の達成に向けた取り組みを着実に推進しなければならない。自然環境や生活環境の分野においては、重点事業の進捗とともに市民の満足度・関心度に改善が見られ、概ね評価できる。一方で、地球温暖化防止や循環型社会構築の分野では、達成目標について、目標値と現状値の間に乖離が見られる。市民への情報発信や環境学習・保全活動の場の提供を行う上で、市民が興味を持ちやすい切り口を探し、より効果的に伝わる手段を選択して、施策の一層の推進を図る必要がある。

2015年度に運用を開始した「町田生きもの共生プラン」においては、自然豊かな町田市らしい取り組みの成果が、生きものに関心のある市民の割合の増加に認められる。今後は多様な主体との連携を進めること、生きもの調査や学習会の内容を充実させることを期待したい。また、緑地管理に関しては日頃の活動への市民参加を促すことが望まれる。

「第二次町田市環境マスタープラン」及び「町田生きもの共生プラン」は共に、2021年度に計画期間の終了を迎える。市民の努力が反映されるような指標の設定やプラスチックごみ削減等の社会的な問題など、現行計画の進捗点検を行う上で顕在化してきた課題を整理し、次期計画に反映することが重要である。特に市民の環境意識に働きかけ、市民の環境への取り組みが促進されるよう、適切な指標の設定、施策の選定のほか、社会の変化に伴う新たな視点や指標を加えることについて、十分に検討されることが望まれる。

2 評価および意見

2018年度の進捗点検は、「第二次町田市環境マスタープラン」の5つの基本目標ごとに、行った。この内、「基本目標2：自然環境と歴史的文化的環境の保全」には、「町田生きもの共生プラン」の評価も含めることとした。

評価点は、5点を「評価できる」、3点を「普通」、1点を「評価できない」とし、各委員の評価をもとに、評価意見及び提案等をまとめ、審議会としての評価とした。

2018年度の評価及び意見は以下のとおりである。

| 基本目標1 | 地域で取り組む地球温暖化の防止 | 評価点 | 2.8 |
|---------|---|-----|-----|
| 主な評価理由等 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民一人あたりの二酸化炭素排出量とエネルギー使用量が数値とグラフで可視化されていることは大きなことである。 ・マイカーの使用をできるだけ控える市民の割合が減っているのは課題である。 ・特別緑地保全地区の指定拡大、緑のカーテンの導入は、緑地の残る町田市らしい取り組みと評価できる。 ・わたしのエコ宣言の参加者が増加している点は評価できる。 ・地球温暖化については市民の興味はあるようであるが、取り組みという点では進んでいないように感じる。 ・達成目標について、いずれも目標値と現状の差が大きく、今後達成見込みも低く、達成できなかったと評価せざるをえない。 | | |
| 主な提案事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・異常気象に対して不安を抱く市民が多い。市民一人あたりの二酸化炭素の排出量とエネルギー使用量を用いて、それらの削減に向けた啓発活動を地域で取り組む地球温暖化の防止の取り組みとして進めていただきたい。 ・再生可能エネルギー普及に向け、電力小売自由化について講習会や情報発信を行ってはどうか。 ・キャラクターや市内出身有名人からの呼びかけ、駅前大型ビジョンでの周知など、町田市民のマジョリティ層に届く施策が必要ではないか。 ・「緑のカーテンづくり」について、より広い周知を図るとともに、町内会や市内の企業にも広く協力要請を行ってはどうか。 ・ヒートポンプを利用しているエアコンやエコキュートは、エネルギーの有効活用、二酸化炭素排出量削減が可能であり、導入支援、情報提供は施策実現に向けて有効である。 | | |

| 基本目標2 | 自然環境と歴史的文化的環境の保全 | 評価点 | 4.3 |
|---------|--|-----|-----|
| 主な評価理由等 | <p>＜第二次町田市環境マスタープラン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺とのふれあいについて、満足している市民の割合および生きものに関心のある市民の割合の増加が認められたことは、重点事業の進捗とともに政策が浸透しつつあるものと判断される。 ・北部丘陵の整備は、年度目標を達成している点、遊休地のあっせんをしている点は評価できるが、里山の保全・適正な更新、森林資源の活用など、市内の緑地管理には改善の余地がある。 ・自然観察会等参加型の取り組みが活発であり、評価できる。 <p>＜町田生きもの共生プラン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトを推進させるための普及啓発資料である「まちだ生きもの探しマップ」、「お家に生きものを呼んでみよう」は大変優れている。 ・自然の豊富な町田市らしい取り組みは評価できる。地道な活動の成果が少しずつ出ていると思われる。 | | |
| 主な提案事項等 | <p>＜第二次町田市環境マスタープラン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の緑地管理の強化が望まれ、市民の積極的な参加を市として支援していったらどうか。 ・市民(特に子ども)が、日常生活圏の中で水辺や生きものと触れ合えるような場づくりを進める事業を展開していただきたい。 ・より多くの方が自然環境の良さや重要性に気づききっかけになるよう、多くの市民が集まる駅前密集地区などにおいて、スポット的に自然と触れ合える場所や機会の提供をしてはどうか。 <p>＜町田生きもの共生プラン＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性センターの構築に向け、市民からの生きもの生息情報を活用し続けていただきたい。 ・市民協働による生きもの調査等は、自治会や高齢者の協力を仰いだり、生物関連の学部がある大学や環境保全団体との連携を深めたりしてはどうか。 ・市民が参加できる生きもの調査や学習会の内容を充実させ、PRを積極的に行っていただきたい。 ・生きもの共生プランの内容を市民がもっと共有できるように、SNSやアプリのPRを強化していただきたい。 ・子ども達に生きもの大切さを伝えて行くため、子ども達の興味を創る施策と、親の意識改革を促す取り組み、高齢者から協力を得る取り組みが必要と考える。 | | |

| 基本目標3 | 持続可能な循環型社会の構築 | 評価点 | 2.7 |
|---------|---|-----|-----|
| 主な評価理由等 | <ul style="list-style-type: none"> ・達成目標①のごみとして処理する量と、③の資源化率について、目標値と現状値の差が非常に大きい。達成見込みもかなり困難と思われる。 ・市内の事業者から排出されるごみの減量を推進するために、「まちだ3R賞」を創設したことは評価できる。 ・一人あたりのごみの量が順調に減少しているのは評価できる。 | | |
| 主な提案事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちだ3R賞のPRをもっと進めていただきたい。 ・社会の大きな政策課題となっている使い捨てプラスチックの使用削減に向けて、町田市として啓発活動を進めていただきたい。 ・市民一人ひとりの自覚と行動につながるよう、継続的な情報発信と市民にプラスになる提案を行っていただきたい。 ・ごみ減量には消費者の商品選択とごみ処理有料化が効果的と考える。前者について、意識啓発と情報提供を進めてはどうか。後者は、処理実費に近づけた料金とし、その根拠を収集袋に表示する等の方法が検討に値すると考える。 | | |

| 基本目標4 | 良好な生活環境の創造 | 評価点 | 4.2 |
|---------|--|-----|-----|
| 主な評価理由等 | <ul style="list-style-type: none"> ・居住地の周辺環境に満足している市民の割合が増加していることは好ましいことである。 ・大気や水質に関する環境基準がほとんど達成されている点は評価できる。 ・下水処理施設の水質向上(高度処理化率増)は評価できる。 ・道路整備については改善の余地がある。 | | |
| 主な提案事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・町田市のお好きな点等をテーマにした作文の募集・表彰をしてはどうか。 ・生活風景宣言等による良好な景観づくりについては景観まちづくりニュースの配布だけでなく、ホームページでも目立つように、良好な景観の風景写真をたくさん使って紹介していくと良い。 | | |

| 基本目標5 | 環境に配慮した生活スタイルの定着 | 評価点 | 3.4 |
|---------|--|-----|-----|
| 主な評価理由等 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における環境教育や、子ども向け環境講座の実施は、定着しており評価できる。 ・ライトダウン等の節電意識向上のためのキャンペーンや、企業への保全活動各種説明は定着に向かっており評価できる。 ・市民、事業者の環境配慮行動や、環境に関するイベント参加率が低下していることは好ましくない。 ・達成目標の数値が伸び悩んでいるが、環境教育の効果はすぐに出るものではなく、地道に活動を続けていくべきではないか。 | | |
| 主な提案事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート結果から数値を算出する「環境に配慮した行動を行っている市民の割合」について、取り組み項目を日常生活の心がけでできるもの、実施効果が高いもの等を抜き出して測定してはどうか。また、「再生可能エネルギーの選択」の項目を加えてはどうか。 ・引き続き市が中心となって、情報発信や環境学習・活動が出来る場を提供していく必要があると考える。 ・イベントやキャンペーン時に、生物の紹介や説明会を同時開催したり、形式を変えたり、より効果的な施策を提供していく必要があると考える。 | | |